

新・第5次荒尾市総合計画(改定版)の政策体系

まちづくりの方向性



将来像

世界基準の自然と文化が、
人のつながりや誇りを紡ぐ、
希望と志にあふれるまち
『しあわせ 創生 あらか』

将来の 人口展望

2060年に42,000人
2019年(総合計画終期)に約52,800人
合計特殊出生率 2020年に1.8、2030年に2.1
人口移動 2020年以降に均衡(2020年までに1/4に縮小)

重点戦略

『あらか未来プロジェクト』

※概要については別紙参照。

各政策の目的

「ひと」と「しごと」の好循環で人口減少を克服する 『積極戦略』

1. 安定した雇用を創出する

若い世代の流出に歯止めをかけるため、新たな雇用を創出し、若い世代が安心して働ける職場を生み出す。起業しやすい環境づくりや地域中核企業の支援、市外企業の戦略的な誘致を推進しながら、併せて、若者の雇用対策や女性の活躍推進を行い、一次・二次・三次産業それぞれの地域産業の競争力を高める。

2. 新しいひとの流れをつくる

本市の特長である「暮らしやすさ」を最大限に活かしながら、移住と定住の促進を図る。移住希望者への情報発信を強化するとともに、住まいを中心とした移住の受け皿や相談窓口に関する環境を整備し、併せて、本市で生まれた方が市外に転出せずに済むよう雇用に関する支援等を行う。

3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

晩婚化・晩産化の傾向を改善し、出生率を高めるため、若い世代の出産に関する理想と現実の間にある様々な壁を取り除き、安心して結婚・出産・子育てができる社会づくりを進める。主なハードルとなっている若い世代の経済的不安の解消や出会いの機会の創出、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を推進する。

人口減少に対応し「ふるさと」を守り繋げる 『調整戦略』

4. 時代に合ったまちをつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域の連携を推進する

人口減少時代においても生活に必要な機能の維持を図るため、中心拠点と各地域とのネットワーク化を図りながら、全体の調和が取れたまちづくりを推進する。また、安全で快適な暮らしができるよう、地域コミュニティの活性化や愛着の醸成を図る。

教育と福祉の向上で充実した生活を目指す 『人づくり戦略』

5. 豊かな心、優れた教養、健やかな体を育む

次世代を担う子どもたちが「生きる力」を育むために学校教育を充実させるとともに、国際交流の機会を充実させ、将来、社会の一員としてグローバルに活躍できるような人づくりを推進する。併せて、社会教育の基盤を整備し、生涯学習の支援を推進する。

6. 健やかで安心できる暮らしをつくる

本市の特徴である高い地域医療機能を更に充実させ、市民の命と安心の暮らしを守る機能（介護や住まい、生活支援サービスとの包括的な提供体制）を強化するとともに、生活の基礎となる健康づくりを推進する。併せて、障がい者・児の福祉の増進を図り、誰もが相互に人格と個性を尊重し、安心して暮らすことができる地域社会を実現する。